



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

Vol. 60

No. 7

第2820例会
2021年11月16日号

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

東京江東ロータリークラブ

2020~2021年度 テーマ

Serve to Change Lives

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
RI 会長 ジュカール・メー 地区ガバナー 若林英博

誓願成就

～願いはかなえよう～
クラブ会長 小嶋映治

今日の卓話

次回例会案内

前半：鈴木隆雄「ポリオの根絶」

後半：平手克治「ロータリー財団と
江東クラブ」

「ウイグルの現状について」

ハリマト・ローズ様

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp

http://www.koto-rotary.jp

例会報告

10/26 訂正出席率 75% (訂正無し)

11/9 会員数 20名中 15名
出席率 75%



会長・幹事報告



11 月度定例理事会報告

10/30 (土) 東分区献血ロータリーデー報告

11/8 (月) RLI パート I 講習を末次会員、大澤栄一会員、伊藤海会員が受講しました。

11/12 (金) 小野会長エレクトがプレ PETS (zoom) に出席します。

11月のロータリー為替レートは 1 ドル@114 円になります。



☆今週のワンポイントレッスン (No.7)

●理事会とは

毎月一回定例理事会が開かれます。その理事会のメンバーは、会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計とし、一名または数名の副会長となります。会場監督である (SAA) をクラブ細則の定めるところに従って、理事会のメンバーとする事が出来ます。理事会のすべての会合について書面による議事録は、当該会合後 60 日以内に全員が入手できるようにする。

クラブ理事会はクラブの管理主体すなわち審議、企画を兼ねた執行機関で、クラブ運営上最終の決定権と責任をもっています。したがって「総会」で記した件以外は例会に諮る必要はありません。

【配布物】ロータリーの友 11月号、2580 地区 2020-21 年度地区大会記録

【回覧物】2022 年 6 月国際大会ツアーパンフレット委員会報告

ニコニコボックス



東京お茶の水RC:土居岩生様:鈴木隆雄さんにいつもお世話になっております。本日はヒゲの隊長 佐藤様のお話を楽しみにやってきました。

小嶋会長:本日は佐藤正久先生、卓話楽しみにしております。

板倉幹事:佐藤先生、ベイご一行様、本日はよろしくお願ひいたします。

小野会長エレクト:ベイロータリークラブの皆様よろしくお願ひします。

末次君:佐藤先生、卓話よろしくお願ひします。

大島君:合同例会よろしくお願ひします。

菅澤君:ベイロータリークラブの皆様、ありがとうございます。

青木君:ベイの皆さんとの合同例会とても嬉しいです。

伊藤(三)君:佐藤先生御一行様、ベイRCの皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。今日は宜しくお願ひ致します。

鈴木君:大勢のお客様の皆様、おいでいただきありがとうございます。

伊藤(海)君:佐藤様、本日は楽しみにしております。

河西君:伊藤さん、河西さん卓話よろしくお願ひします。

大澤(栄)君:佐藤先生、よろしくお願ひします! ベイの皆様楽しみましょう!

益子君:参議院議員 佐藤先生、本日の卓話よろしくお願ひします。

大澤(秀)君:東京ベイの皆さん、本日よろしくお願ひします。

合計 60,500 円
累計 391,500 円

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分~13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



専任しよう みんなの人生を豊かにするために



我が国の最新国防事情



参議院議員 自由民主党外交部会長 佐藤 正久

●アメリカから頼られる日本

内政が不安定なアメリカ。今までと非常に違う。アメリカは今、日本をもものすごく頼っている。アメリカに行ったら驚きます。これほど日本が頼られているのか。安倍総理はやはりすごかった。「こんな総理はいない」とアメリカから言われました。確かに平和安全法制というもので、限定的とはいえ、守り守られる集団的自衛権もやったというだけではなく、「自由で開かれたインド太平洋」というコンセプトを作り、これにアメリカも賛同し、多くの国が賛同した国際秩序をつくった。

そして、まさに対中国のリバランスの経済版として作ったTPP。これをトランプ大統領が抜けた。しかし、アメリカなきあとみんなが意気消沈しているときに、日本がリーダーシップをとってまとめあげて、TPP11 (CPTPP) をやった。日本とヨーロッパでなかなかできなかったEPA (経済連携協定) もやった。こういう国際秩序をつくる。日米豪印、日本とアメリカ、インド、オーストラリアという四カ国のQUADもやる。こういう国際秩序を日本がリードをしてつくった。これはものすごく評価が高いです。

アメリカにとって、このアジア地域で一番信頼がおける同盟国はどこか。日本なんです。だから菅総理も一番最初にアメリカに招かれた。アメリカが今向いている方向は中国です。中国に対して一番頼りになるのは日本だと思われています。それは韓国でもない、オーストラリアでもない、やはり日本なのです。アメリカはそれぐらい今、日本に大きな期待、責任、役割の増大を求めています。

今、アメリカは、先ほど言ったように、自分の価値観を世界に広げるのではなく、外交、安全保障の分野で、中国に対して集中しようとしています。経済的には中国とやり取りして儲けようというのは当然です。日本もそうです。十四兆円の中国でのあがり方をフィにする必要は全くない。しかし、機微な技術、経済安全保障的に非常に大事な技術、あるいは安全保障の分野はちょっと違います。アメリカも対中政策において協力と競争と対立の三つを組み合わせると言っています。当然です。経済で儲かる一方で、やはり競争と対立する部分があります。これについては日本にも相当期待があります。

●内向きになっているアメリカ

今アメリカはものすごく内向きになっています。強い格好ができない。内政が極めて不安定です。上院は共和党対民主党が五十対五十です。バイデン大統領は民主党なので副大統領も民主党です。副大統領は上院議長でもありますから、上院は何とか抑えています。議会対策を行うハリス副大統領は経験が浅い。加えて、下院は二年に一回選挙がありますから来年の十一月にもう一回選挙です。三百八十五議席のうち、今民主党が過半数をぎりぎり持っていますが、一議席でも欠けたら過半数はないのです。これが今のアメリカの議会の状況です。苦勞するに決まっていま

す。

しかも、下院のほうは、バイデン大統領のような、中道の民主党ではなく左派系の民主党が伸びています。ましてや、今リパタリアンと言われるような、国よりも自分、自分の自由というものを求めるグループも増えています。アメリカは今ほとんど内向きになっています。バイデン大統領の重点施策はみんな内政です。

まずコロナ対策。コロナから立ち上がる経済対策。そして、民族、人種を含めた分断の問題。さらに、オバマケアを含めた社会保障、気候変動、みんな内政なんです。今エレン財務長官が財政出動をものすごい勢いで国内向けにどんどんやっています。だからアメリカは景気がいいに決まっています。いずれどこかで限界が来ると思いますが、今はものすごい。あれだけ財政出動したら、今、コロナ対応で失業したら一週間あたり七万円ぐらい貰えます。もう失業したほうがいいというぐらい、今一生懸命手当を支給しています。来年選挙があります。これで負けたら四年後の大統領選挙は危うい。来年の中間選挙に向けてどんどん内政をやっています。そのしわ寄せが防衛とか外交に行くのは当たり前です。外交は内政の延長線上にありますから。

わかりやすいのは予算です。来年の予算で国防費は全体で一・六パーセント増です。これがバイデン政権の予算です。若干増えたように見えますが、全然増えていません。なぜかという、アメリカの国防予算は、一つは通常の国防予算で、もう一つの柱が海外での活動経費、つまりアフガニスタンやイラク、ソマリア等いろいろ行方海外での戦費があります。

これからはアフガニスタンでドローン、無人機での攻撃は続きますが、これら戦費はもこのオーバーシーズ・コンテンジェンシー・オペレーション、OCOという予算名です。これまでは一般の防衛費とは別でしたが、バイデン政権になってこれを防衛予算に入れ込みました。私がイラクに派遣された当時は、このOCOが日本円で七十〜八十兆円ありました。国防費と同じぐらいの戦費です。今はずっと減っていますけれども、これが国防費に乗っかる。政府の予算案では、二〇二一年と二〇二二年の会計予算の国防費の比較では五百億ドルのマイナスです。これはかなり効きます。議会のほうは、これはあまりにもひどいと言って、今、何とか二百億ドル戻そうとしていますが、それでも三百億ドルの減です。これで中国に対峙しようとする、当然インド太平洋軍の予算は上がる。そうすると、中東とかヨーロッパを含めてほかの予算がガクッと減る。これが今のアメリカなんです。

だから、日本に、あるいは韓国に負担をどんどん求めてくるというのは、アメリカの内政を見ればみんなわかります。日本に頼っている。日本の役割をもっと増やしてくれ。もっと責任分担をしてくれという要求がものすごいです。しかも、アメリカは中国に対して日本国民が考える以上に本気です。逆に「なんで日本はこんなに中国に近いのに役割を果たさそうとしないのだ。危ないのはおまえらのほうだろう」と言われます。

アメリカの対中国問題では技術的な観点、まさに知的財産を盗まれたり、強制的な技術移転、貿易赤字もあるという部分も当然あります。でも、やはりアメリカに対して中国は軍事的な挑戦、宇宙の挑戦をやっている。軍民融合技術がある。「経済力が上がったなら、我々と同じ価値観を持つのではないか」といったオバマ大統領の対中関与政策は失敗しました。経済力が上がったなら軍事力も上がってしまった。これは失敗だったという反省のもとに、今、舵を切っています。なんで日本はやってくれないのだということを感じて言われます。

●中国にどう向き合うか

では、中国にどうやって向き合うか。日本の外交のメインストリーム、主軸は大陸です。これは当たり前です。でも、今の中国の習近平国家主席のあの立ち振る舞いを見ると、やはりメインストリームは大陸でも言うべきことは言わないといけな。人権、民主主義、法の支配、自由。日本の価値観外交。これは言わないといけな。ましてや、日本の安全保障にかかわることについては言わないといけな。当たり前です。

特に、今の習近平主席はやはり今までの主席と違います。ある人が言っていました。「習近平主席は文化的な香りがしない。今までの主席と全然違う」と。この前の共産党大会での演説は品がないと多くの人が言いました。ましてや、先輩の温家



宝主席の「マカオ導報」紙への投稿を槍玉に挙げる。前の実力者でも除ける。こういうことを今堂々とやっている。歴史教育も今とんとん盛んにやっています。今まさに中間層を膨らませようということでメディア統制もやっている。ものすごいです。

彼は来年の共産党大会で三期目の主席に就任します。憲法を変えました。後継者がいないので間違いなくそうなるでしょう。四期目が二〇二七年。人民解放軍創設百年もそこですが、まさに二〇二二年から二〇二七年の三期目、この五年間が習近平主席にとっては勝負です。我々はこの時期を時期的焦点として見なければいけないと思っています。彼はそのとき、何としても台湾を香港のようにしたい。もともと一国二制度という言葉は、どちらかという台湾のほうに使っていた言葉であって、香港ではそうではなかった。しかし、ご案内のとおり、国家安全維持法で香港も一国一制度というかたちにしてしまった。イギリスが怒るのは当たり前です。もう香港には民主主義はない。もう一丁上がりです。チベットもウイグルも一丁上がり。残っているのは台湾なんです。

アヘン戦争で取られた香港を取り返し、日清戦争で取られた台湾を取り返せば習近平の格がガンと上がります。彼は毛沢東に並びたいという野望があります。毛沢東は国をつくり、鄧小平は国を豊かにし、習近平は国を強くする。だから何でも強いという言葉は付けます。「宇宙強国」「経済強国」「健康強国」。何でも「強国」、強い国を付けます。毛沢東と並ぶためには、香港は終わった。台湾を何とかが軍事的に、あるいは政治的に中国の一部にする。香港のように、まさに一国一制度にした。これらの動きがこれからものすごく強くなります。

習近平は力を信奉しています。国家総動員をかけても、何としても力というものに頼るのが今の中国です。民主主義、自由ではなく力。アメリカに対してかなり強く出ているのも力をつけてきたからです。

宇宙一つとっても、アメリカよりも進んでいる部分があります。月の裏側に探査機を着陸させた。これはすごい技術です。中国から直接電波は通じませんから、中継の衛星を通して探査機を着陸させないといけない。そこで、今はまだ条約が十分ではないので、ヘリウム3のような核融合にも使えるようなものを採って戻ってきている。アメリカも月に探査機を着陸させました。でも、あの映像を見た限りは中国のほうが上だったと私は思っています。アメリカはもう月に行っていない。だから慌てて、トランプ大統領のときに、もう一回アメリカは月に戻るんだというので、アルテミス計画が始まりました。日本も参加してくれということになりましたけれども、今は中国のほうが進んでいます。

例えば、自動運転一つとっても、「じゃあ、これをバイドゥがやってください」と、もう半端ない金と何百人もの博士をドンと入れる。車の自動運転とAIを結びつけられれば、自動運転はどんどんよくなるに決まっています。でも、AIと自動運転を組み合わせたものに兵器を載せたらロボット兵器です。境目はないんです。今、国際禁止条約、ロボット兵器をどうするかまだ探めていますけれども、軍と民の境目はない。そういう状況のときに、では、どうやって日本の役割を増やしていくか。

●中国から見た世界地図

きょう皆さんのお手元にもこの逆さ地図があるかもしれませんが、やはり考えるときに相手のほうから見ないといけない。中国から見ると、日本列島はやはり邪魔に見えます。第一列島線、まさに日本、台湾、フィリピンというのは中国から見ると邪魔な存在です。ペラッと大陸を覆っている。台湾というのは南シナ海、東シナ海、太平洋、この三つを抑える戦略的な要衝です。

習近平主席が台湾を攻めようとしたときにどうするか。戦いというのは戦力の集中と分散です。これは皆さんの企業経営でも同じかもしれません。資源の集中と分散。いかに台湾に自衛隊やアメリカの戦力を集中させないか。分散させるか。当たり前です。選挙もそうです。衆議院選挙。小選挙区はたった一人しか受からない。であれば、自民党的には野党の方々に乱立してもらったほうがいいに決まっています。分散しますから。台湾も同じなのです。自衛隊や米軍が台湾のほうに集中しないためにはどうすればいいか。同盟国を使います。中国の同盟国。これは北朝鮮です。北朝鮮が何らかの動きをすれば、在韓米軍は台湾に来られません。在韓米軍は北朝鮮に引っ張られます。自衛隊の一部、九州の部隊も朝鮮半島に引っ張られます。この地図を見てもらえばわかります。



では、ロシア。ロシアは今非常に中国と連携しようとしています。アメリカの嫌がることをやる天才がロシアですから。アメリカの嫌がることを頼まれたら、北方領土、樺太、極東で、何らかのロシア軍が動けば自衛隊も米軍も少し引っ張られます。となると、台湾に向く戦力がとんとん少なくなる。さらに、ヨーロッパ正面。まさにバルト海正面、あるいはクリミア半島がある黒海正面のほうで、ちょっとロシア軍がウクライナとの関係で動くとなATOのヨーロッパのほうも引っ張られる。そうすると台湾に影響を及ぼそうと思っても、とても今回来たようなイギリスの空母打撃群も来られない。戦力を分散させることができます。いかに戦力を集中させないか。まさに中東戦争におけるイスラエルとアラブ連合軍の関係と全く同じです。

でも、日本もアメリカも馬鹿じゃありません。中国が台湾のほうに、東のほうにずっと向くときには、中国を東だけではなく南のほうに向けたい。そのときに頼りになるのは、やっぱりインドです。まさにインドが何らかの動きをするだけでも、中国は南のほうにも関心を向けないやられてしまう。だから、日米豪印QUADなんです。確かにQUADは軍事的な側面だけでなく、経済、技術あるいはワクチンといったばらばらしています。でも、将来的にインドにいかかに軍事的分野で動いてもらうかということにおいても重要です。今はワクチンとか技術、経済をどんどん回していても、共同訓練を含めて、インドをいかにこちらのほうに引っ張り込むか。

インドの南にあるインド洋のディエゴガルシア島という島にアメリカの基地があります。そこに中距離のミサイルを置くだけで、インドの上空を通過することを許してもらっただけでも違う。南側にアメリカのミサイル基地があったら、中国は間違いなく南に対応しないといけない。負荷を掛けたい。それがこの戦いなんです。

さらに、ヨーロッパも日本のほうにどんどん寄ってきています。あの中国の人権、民主主義、法の支配、これはいくらなんでも看過できない。中国であれほど儲けているドイツですら、新たな戦略を作り、フリゲート艦をこのインド太平洋地域に派遣をする。新疆ウイグルのあそこにもドイツの自動車工場があるのに、そこまでやらざるを得なくなっている。これが現状です。

●重要性を増す台湾

しかも、「台湾有事は日本有事」と私が言っているのは、日本にとって台湾海峡の安定というのは極めて重要なのです。もう一回この地図を見てわかるように、台湾の南のバシー海域。日本の来る油の九割がこのことを通ってきています。南シナ海、台湾海峡が中国の海になってしまったら、日本に来る油は止ってしまいます。本当にエネルギー安全保障の観点から言うと、日本の油の道は、私がいいたあのイラク、ペルシャ湾からインド洋、マラッカを通って、南シナ海、台湾の海峡を通して日本に来る。一本なんです。

今、衛星でパッと見ると、その油の道には約五十隻のタンカーが浮いています。でも、五十隻のタンカーには日本人の船員がいません。外国の方です。安倍総理がイランに行って大統領と会ったときに、日本関連船舶のcocka・カレイジャスが攻

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分~13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



専任しよう みんなの人生を豊かにするために



撃を受けてタンカーに穴が開いた。乗組員は全員フィリピン人でした。今年になってからも日本企業が所有しているタンカーが、やはりオマーン沖でやられました。乗組員は全員外国の方です。南シナ海とか台湾海峡が不安定になって、誰が日本のために命を懸けて油を運んでくれるか。そんなお人好しはしません。不安定になったら間違いなくロイドを含めた船の保険料が上がります。この台湾海峡が使えなくなったら、大回りでインドネシアのロンボク、マカッサル海峡を通らないといけない。五日間余分にかかったら、日本で一日当たり八千万円余分にお金がかかります。

でも、実はそれ以上に大きな影響を受けるのは、これを見てわかりますけれども韓国なんです。韓国は日本以上に代替ルートがありません。台湾海峡にほぼ一〇〇パーセント油の道を依存しています。ですから、本来、台湾海峡の安定というのは、韓国にとっても死活問題なのです。なのに、今の文在寅政権は台湾海峡の安定のために、日米等と一緒にやろうとしません。中国にもものすごく気を遣っています。韓国は半島国家です。半分島の国家なので、時の政権によって大陸に寄ったり日米の海洋に寄ったりします。今の文在寅政権は左派政権なので、どうしても北朝鮮、中国に近い。だから今、台湾海峡の安定については言わない。米韓首脳会談の宣言にも「中国」という言葉すら入れるのをためらう。でも、実際は韓国が本当に大変なんです。多くの日本企業の方も韓国のほうで仕事をしていると思いますが、台湾海峡で何かあったら、もう韓国は終わりです。代替ルートはありませんから。

だから、私が言っているのは、今のうちから日本と台湾あるいはアメリカ等まさに航行の自由、台湾海峡の平和と安定。どの船も自由にしっかり動けるような環境をつくるためのプラットフォーム、こういうかたちをつくっておいて、韓国の政権が保守政権に替われば一緒に入ってもらう。そのためにイギリスも、そしてオーストラリアもどんどんそれをやってもらおうということを今盛んに言っています。

よって、台湾海峡安定、南シナ海の安定のために、私は特に北部、南シナ海ぐらいは海上自衛隊による航行の自由作戦をやる。今アメリカが全部やっていますが、その一部を日本のほうで肩代わりするというのも、もう避けて通れない時代だと思います。いかにして台湾海峡の安定というものを具体的にやるか。菅総理がバイデン大統領と話して、共同宣言に「台湾海峡の平和と安定」が入った。ヨーロッパ主体の首脳会談、G7の中でも、「台湾海峡の平和と安定」が入った。昔はヨーロッパにとって台湾は極めて遠い存在でした。でも、今は違います。

イギリスがまさにEUから離脱をした。今日本にもものすごく寄ってきています。TPP11 (CPTTP) に入りたい。日本との関係を強化したい。空母も派遣する。ついては、次期主力戦闘機、日本の新しい戦闘機のエンジン開発を日本と一緒にやりたい。これができれば民間の航空機に対してもものすごく応用ができる。IHJとロールスロイスの間でいいものができる可能性があります。今までずっとアメリカに抑えられていた部分に航空機のエンジンに風穴を開けることができる。今ものすごく一生懸命です。

また、日英同盟の幕開けかと言う人もいます。そのぐらい今どんどんイギリスがこっちに寄ってきている。まさに、この香港の問題もあったということもあるのですが、もう時代が違って、このインド太平洋のほうにイギリスは哨戒艦二隻、常駐させる。昨日、イギリスの二隻の哨戒艦が出港しました。イギリスに帰るのは二〇二六年だそうです。二〇二六年まで、ずっとこの辺りにいる。いろいろなところに行くでしょう。そのぐらい非常に寄ってきています。フランスもそうです。

だから、価値観を同じくする国々でしっかり守るべきものを守っていく。中国は習近平は力を中心に考えています。だったらこっちもある程度の、日米だけではなく、いろいろな国の足し算で、力というものがある程度背景にしないと抑止は効きません。力があるからいろいろ外交交渉ができます。もうアメリカ一カ国では対応できない時代です。それはアメリカも認めています。だから、友好国、同盟国と一緒にやるんだ、だから「アメリカ・イズ・バック」という言葉をみんな信じた。これが実態です。

ましてや、そして台湾というのは、半導体、TSMC(台湾積体電路製造)の2ナノの高性能スペックを作る。これはオランダなどのいろいろな国が連携していい半導体を作る。中国本土だけでは17とか16ぐらいのナノしか作れない。5Gのスマホは、中国では半導体の在庫がなくなってなかなか作れないという状況と聞きます。やはり同じ価値観を持った国同士がサプライチェーンをしっかり持つ。それに台湾というものを入れないと成り立たないという現実があります。ホンハイのような世界トップクラスのIT関連のESM(電子製品受託製造)企業がある。台湾が

何か不安定になったら、日本のサプライチェーンのほうにも影響が出ます。

中国のほうに依存している部分もありますが、そういう部分は依存度を下げないといけない。我々はマスクでも教訓を得ましたし、ECMO(体外式膜型人工肺)あるいは人工呼吸器でも教訓を得ました。でも、私が一番驚いたのは二年前、中国の内モンゴルのほうで工場が爆発した。そうしたら、日本で、病院で手術をするときに使う抗菌剤が入ってこなくなった。調べてみたら、安いからといって、ほぼ一〇〇パーセント中国の内モンゴルに依存していた。これは駄目だということで、経済安全保障の会議の中で、今、国家安全保障局の中で経済安全保障班というものを作り、そういうことをやっています。そういう意味でもこれからは台湾一つとっても、経済安全保障と本当の純粋な安全保障というものをマッチングしながら考えないといけない。そういう時代になっています。

●相手の視点で日本の防衛を考える

相手から見たとき、習近平主席はどう思っているのかということを考えてながら、しっかりとこれからの日本の防衛というものを考える。アメリカの国内情勢、内政というものをしながら、アメリカの日本に対する要望、実際の力、純粋な力を見たときに、どうなんだと。アメリカの西海岸から台湾に来るのには二、三週間かかる。二、三週間かかるのであれば、その二、三週間が中国にとっては強みになる。電撃戦をやるなら二、三週間で決着をつける等々いろいろなことがあります。

相手のほうから見ながら、アメリカのほうから見ながら、新たな日本の防衛というものは日本がまず絵を描かないといけない。日本が絵を描いて、「こういうかたちで日本がやります」と言ってアメリカに交渉する。アメリカから言われて何かやる時代ではなくて、まさに日本が自分の国の守りとしてやる。そういう時代です。

日米同盟は基軸であることは間違いありません。基軸のだけれども一〇〇パーセント頼るという時代ではもうない、ということを最後に申しまして、きょうの私のお話とさせていただきます。いろいろ生意気を言いました。今後ともご指導をよろしくお願ひします。ありがとうございました。



佐藤 正久 さとう まさひさ

参議院議員 自由民主党外交部会長

昭和三十五年生まれ。昭和五十八年防衛大学校卒業。国連PKOゴラン高原派遣輸送隊初代隊長、イラク復興業務支援初代隊長等を歴任後、平成十九年参議院議員初当選、現在三期目。防衛大臣政務官、参議院外交防衛委員長、参議院自民党筆頭副幹事長、外務副大臣等を歴任。令和二年より自民党外交部会長。著書『ヒゲの隊長のリーダー論』(並木書房)他多数。

講演者の紹介